

# 檜 山 庫 三 日 本 植 物 雜 記

Kôzô HIYAMA: Notes on some Japanese plants.

**〇ヒロハヒルガオ** *Calystegia sepium* var. *americana* と var. *communis* との違いは結局毛の多少にあるように思われる。この違いを別の變種と見るかどうかについてはまだ説が一定していないが、兩者を同一變種中のものと考えたとヒロハヒルガオの學名には var. *americana* Matsuda を使わねばならない。

**Calystegia sepium** (L.) R. Br. var. *americana* (Sims) Matsuda in Bot. Mag. Tokyo **33**: (145) (1919).

*Calystegia sepium* var. *americana* Kitag. in Rep. First Sci. Res. Manch. **3**, App. 1 (Lin. Fl. Mansh.) 365 (1939). *C. sepium* var. *communis* Hara in Journ. Jap. Bot. **17**: 395 (1941). *C. sepium* var. *japonica* Makino sensu Nakai in Bull. Nation. Sci. Mus. **31**: 94 (1952).

**〇ウスゲヒキノカサ** ヒキノカサは萼を除いては無毛なのが常型であるが、上部の葉の表面に長めの毛を生じるものがあり、この型では葉縁にも睫毛のあるものが多い。これを *Ranunculus ternatus* f. *pilosulus* Hiyama (ウスゲヒキノカサ) と命ずる。尙、*R. ternatus* は標本の上ではケイツネノボタンを含むとのことであるが、Thunberg が Pl. Jap. Nov. Sp. 8 (1824) に本種を再記した際には正しくヒキノカサの圖を掲げているから、この學名を採用して差支えないものと思う。

**Ranunculus ternatus** Thunb., Fl. Jap. 241 (1784); Pl. Jap. Nov. Sp. 8 cum tab. (1824).

forma **pilosulus** Hiyama, n. f.

Folia superiora supra pilosula margine saepius ciliata.

Hab. Hondo: Shimura, prov. Musashi (Hiyama, Apr. 26, 1936 in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

**〇ワカシュウスミレ** スミレで側瓣に鬚毛のない型が武州川崎市稻田 (早川亮太氏探) にある。はじめ新しいものではないかと考えて *Viola mandshurica* f. *glabripetala* Hiyama の名を用意したが、中井先生が朝鮮のもので記載された *Viola chinensis* var. *media* がこれに當るものと考えに至ったので新しく *V. mandshurica* var. *media* の組合せを作った。側瓣の鬚毛の有無はスミレの場合は變種として分つことができよう。

**Viola mandshurica** W. Beck. var. *media* (Nakai) Hiyama, comb. nov.

*Viola chinensis* γ. *media* Nakai in Bot. Mag. Tokyo **30**: 284 (1916).

“Petioli et pedicelli puberuli. Petala imberbia.”

Hab. Hondo: Inada, Kawasaki, prov. Musashi (R. Hayakawa, Maj. 1951— in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo). Distr. Corea.

**○シロバナハグロソウ** ハグロソウの白花品を武州志木で見つけた。これに *Dicliptera japonica* f. *albiflora* Hiyama の名を與える。杉本順一氏によれば駿河でも見つまっているとのことである。

**Dicliptera japonica** (Thunb.) Makino forma **albiflora** Hiyama, n. f.

Flores albi.

Hab. Hondo: Shiki, prov. Musashi (S. Tamura, Sept. 22, 1950—in Herb. Kokuritsu-Kyōiku-Shizen'en).

**○シロバナジュウニヒトエ** (福原) ジュウニヒトエの花色は白紫色が普通であるが、福原義春氏栽培のものは純白花品であるから、このものを *Ajuga nipponensis* f. *nivea* Hiyama と定めた。もと東京芝白金で野生品を採つたものであるという。

**Ajuga nipponensis** Makino forma **nivea** Hiyama, n. f.

Flores candidi.

Hab. Hondo: Tokyo, cult. (Y. Fukuhara, Maj., 1952—in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

**○ケタカネスミレ** 普通に見るタカネスミレの葉は無毛であつて、原記載に云う葉裏下部に僅に毛のあるという形は普通でない。また上州の至佛山 (酒井忠壽氏採) や谷川岳には葉の表面 (時に裏面まで) に短毛を生じる型がある。スミレ類では毛の有無が問題にならぬものもあるが、タカネスミレの場合は有毛の型を認めてよいと思うから、これを *Viola crassa* f. *subpubescens* Hiyama (ケタカネスミレ) と定める。

**Viola crassa** Makino forma **subpubescens** Hiyama, n. f.

Folia supra vel utrinque pilis brevibus sparsim puberula.

Hab. Hondo: in monte Shibutsu, prov. Kodzuke (T. Sakai, Aug. 1, 1935—in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

**○ケントクスミレ** 甲州乾徳山にサクラスミレで葉表面に毛があり葉柄と花梗との無毛な1型があるが、これに *Viola hirtipes* f. *nudipes* Hiyama の學名を與え和名はケントクスミレとした (古瀬義氏採)。尚、ワタサクラスミレも乾徳山で古瀬氏により採集されているが、これも變種として區別するほどのものではないから f. *grisea* Hiyama と組變えておく。

**Viola hirtipes** S. Moore forma **nudipes** Hiyama, n. f.

Lamina foliorum supra pilosa ut forma **grisea** m., stat. nov. [*V. hirtipes* β. *grisea* Nakai in Bot. Mag. Tokyo 27: 129 (1913) nom. nud.; l. c. 30: 284 (1916)], sed petioli et pedunculi glabri.

Hab. Hondo: in monte Kentoku, prov. Kai (M. Furuse, Maj. 23, 1950—in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

**○ウサギツユクサ** ツユクサで花形の變つたものが栽培されている。有色の2花瓣が

細長くなつてその両端が尖つたもので、これをウサギツユクサ (福原) という、學名は *Commelina communis* f. *miranda* Hiyama とする。もと福原義春氏が芝白金から野生品を持ち歸えたものであるという。

*Commelina communis* L. forma *miranda* Hiyama, n. f.

Petalis 2 posticis ellipticis vel oblongis utrinque acutis 10-15 mm longis 5-6 mm latis dilutiuscule violaceo-coeruleis.

Hab. Hondo: Tokyo, cult. (Y. Fukuhara, Sept. 1952 —in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo).

○シロバナオオボウシバナ 栽培のオオボウシバナの白花品であるシロバナオオボウシバナには學名が二つばかり既にあるが、どれも命名規約に適合しない。津山氏の學名は *C. communis* var. *angustifolia* f. *leucantha* Nakai の存在によつて用いられない。そこで新に *Commelina communis* var. *hortensis* f. *candida* Hiyama と定める。

*Commelina communis* L. var. *hortensis* Makino forma *candida* Hiyama, n. n.

*Commelina communis* var. *hortensis* f. *leucantha* Tuyama in Shigenkagaku-Kenkyūsho-Ihō 11:6 (1948).

Nom. jap. Shirobana-ōbōshibana (1938), Shiro-ōbōshibana (1948).



*Commelina communis*  
f. *miranda* Hiyama  
(ウサギツユクサ)  
[やや拡大]

○石川縣のヒュウガミズキ自生地 (代崎良丸) Yoshimaru SHIROSAKI: Home of *Corylopsis pauciflora* in Ishikawa Pref.

本邦ではヒュウガミズキ *Corylopsis pauciflora* Sieb. et Zucc. の自生は從來、但馬、丹後、丹波とされ、とくに丹後の大江山麓、宮津の杉山峯附近に著しく所在していることが植物研究雜誌 5 卷 5 號と 11 號に報告されている。筆者は昭和 11 年 5 月、石川縣能美郡大杉谷村波佐谷で開花したものを採集、同 26 年 4 月、小松市馬場町から江沼郡那谷村菩提へ山越して採集した際に、この一帯に著しい自生を見ることが出来た。翌 27 年 5 月江沼郡東谷口塔尾から舟見山、同郡那谷村瀧ヶ原にかけても發育良好なものを觀察した。東谷口村から舟見山 (海拔 478 米) へ登山道の路傍一帯に自生しているものは 1~3 尺までのもの、中腹ではもっともよく繁茂しており、最大と思われるものの徑 4 分高さ 6 尺を測定する。3~4 尺が普通。頂上附近には見つからず、ここから下山して那谷村瀧ヶ原では農道の傍には著しき自生あり、村民に無造作に鎌で刈り取られ、また鋏で打ちかかわれている状態が歴然としている。ここでは 2~3 尺が普通で 4 尺のものもある。菩提では南面山麓によく繁茂し、下山には足まといする程であり、小指大で 3~4 尺までである。筆者が現に栽植している菩提産は 4 尺にのび、瀧ヶ原産は 2.5 尺である。これらの産地の大杉谷村から那谷村、舟見山、東谷口村は一連の低山嶺であり、第三紀の石英粗面の地質である。分布上注目すべき新産地として報告する。(石川縣小松市教育研究所)